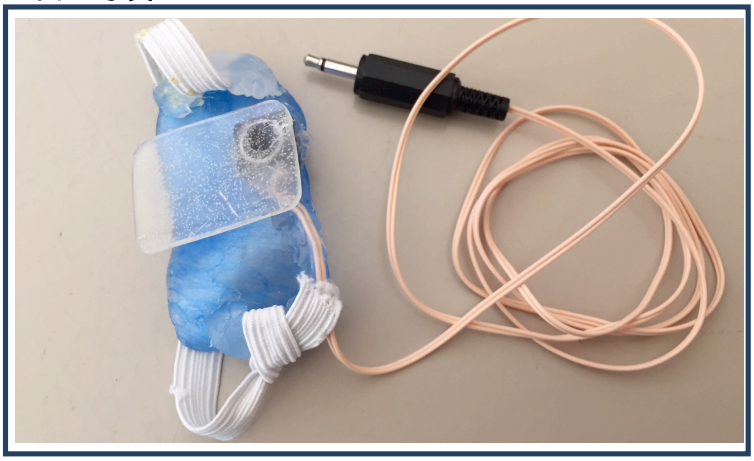
## 教材・教具名：小型パネルスイッチ

製作者：　水之浦

**主な使用場面・領域・教科等：　自立活動**

**＜図・写真＞**



**＜材料・製作方法等＞**

おゆまる　薄型タクトスイッチ
モノラルプラグ　ケーブル　プラ板
ホットボンド　紐ゴム

①熱湯で柔らかくなった「おゆまる」で手のひらの型を取って土台とする。②プラグとケーブルをハンダ付けし，タクトスイッチにケーブルをハンダ付けする。③中指の可動域を考えながらタクトスイッチを土台に接着。④タクトスイッチのボタン面にプラ板を接着。⑤土台の両端にホットボンドで小さなアーチを作り紐ゴムを通す。

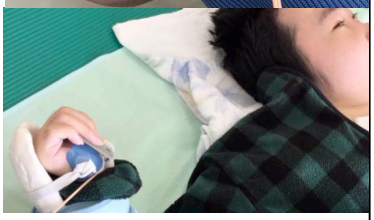
**＜ねらい＞**

①指の小さな随意運動でスイッチを操作できるようにする。
②身に着けることにより安定してスイッチを使い続けることができるようにする。
③卒業後も，“マイスイッチ”として継続使用できるようにする。

**＜指導方法・留意点等＞**

①基本となる操作方法を知り，操作のための運動の仕方を学習する。指だけの動きは難しいため，手首の掌屈・背屈によって指の曲げ伸ばしがしやすくなることを知る。
②音声機器等と接続し，スイッチ操作への興味や意欲を高める。
③ドライヤー等と接続し，スイッチ操作のタイミングや長さのコントロールに取り組む。（継続動作で快を得られる機器では OFF への意思が薄れるため，継続動作でやや不快となる機器を選ぶ）
④様々な機器と接続し，スイッチを活用する。

**＜指導経過・成果・課題・展望等＞**



ふだんの状態でほぼ直角に背屈しているため，力が入りやすい日にはスイッチが押されっぱなしになってしまう。当初は教師が手首を把持し，甲を親指で押すことにより手首の背屈を軽減していたが，自立操作のために，手首を伸ばすサポーター（剣道の小手状）を製作した。棒を芯として紙粘土で成型し，乾燥後ニスで強度を高めた。その日の状態に合わせて手首の角度を決め，サポーターを前腕２箇所のベルト留めで使用した。

２学期からこのスイッチ学習を開始。それまでは右上肢を振る粗大運動でビッグスイッチを操作してきたため，微細運動で操作することが難しかった。緊張の度合いによっては装着時の細かい位置調整がシビア。しかし，２ヶ月を経過すると教師の合図に対し即座に押せることが多くなった上，どうしても指が思うように動かせない際には，自ら上肢を振って膠着状態を解消し，操作できたこともあった。

これまでは自立活動の時間に使用するのみだったが，３学期はより多くの時間，装着した状態で生活し，必要な場面で機器に接続し，すぐに操作できるようにすることで般化が進むものと考える。操作能力を一層高め，将来的には AAC 機器を使ったコミュニケーションを可能にしてほしい。